

住所別では、地元の新宿区が圧倒的に多く、当院が地区病院の役割をはたしている事が分つた。

#### 4. 慢性水銀中毒の1症例

(三神内科) ○竹宮 敏子・三神 美和・  
小山 千代・宮坂 節子

症例：吉〇一〇 20才♂，温度計製作工場勤務。主訴：痙攣と歯齦着色。家族歴，既往歴に特記すべきことなし。現病歴：4年前に入社，2年前より水銀を取扱い，1年前より主訴を発症し，最近全身倦怠感がある。入院時所見：上下顎とも歯齦および口腔粘膜に黒紫色斑あり，眼瞼に振戦を認める。上肢の諸腱反射正常，膝蓋腱反射やや亢進，腹壁反射正常，バビンスキー，チャドック反射は弱陽性，両側指運動はほぼ正常であるが企図振戦あり。協調運動，筋緊張は正常で，知覚障害もない。検査成績：血液は赤血球増加 (Hb 18.4 g/dl, R 552 × 10<sup>4</sup>)，尿中水銀68γ/l。胸部 X-P, EKG, 胃透視およびEEG, 眼底，聴力，髄液等全て正常。肝機能および腎機能検査にも異常なし。EMGで nuclear lesion を認めた。治療と経過：BAL (100mg/day × 60days) の筋注で尿中水銀排泄量は増加し (430γ/l)，歯齦および口腔粘膜の着色は消失したが，神経症状には変化をみなかつた。

#### 5. 躁うつ病者の不眠に対する Benzalin (Nitrazepam) の効果

(神経精神科) 浅野 欣也

比較的軽いうつ病，回復期の躁病，慢性の軽い躁病など，主として外来患者に Benzalin (Nitrazepam) を投与したところ良好な結果が得られた。寝付き寝起きともに悪い患者，寝起きのみ悪い患者，寝付きが悪く朝早く覚める患者などで有効で，寝付きを早め，睡眠を深くし，夜中の途切れを少なくし，朝の寝起きをよくする作用が認められた。また朝早く覚める患者に対しても睡眠時間の軽度延長をもたらしたが，この効果はやや物足らず，これに対して朝の寝起きをよくする作用が最も印象的であつた。このように，うつ病時に特徴的な寝付きが遅く，朝なかなか起きられないような患者ではほぼ理想的な睡眠が得られた。他の眠剤との比較はむづかしいが，寝起きをよくする作用では勝れていると思われる。

またバルビツール酸系その他の眠剤の一部または全部を Benzalin (Nitrazepam) と置き換え得る可能性も期待できそうであつた。副作用としては脱力感を訴える者が少数あり，投与を中止しなければならなかつた外に，以前胃切除をうけたことのあるうつ病患者で主症状の胃腸に関する苦痛が増悪して，患者自身が服用をやめてし

まつた1例があつた。その他の副作用は一過性であつたり，軽度であつたりし投与を中止する必要はなかつた。

質問 福山 幸夫 (小児科) 1. 小児科では Nitrazepam の催眠効果を脳波検査時の睡眠誘導に應用して検討した結果，無効のことが多かつたので，われわれは Nitrazepam の催眠作用は弱く，催眠作用があるにしてもトランキライザー作用がかなり関係しているのではないかと考えている。

2. 就寝から入眠までの時間を，Nitrazepam 投与前後で比較されたか。

3. 適当な量 (頓服) はどれくらいと考えますか。

応答 浅野 欣也 (精神科) 2. 効果の判定は患者の Angabe をよく聞いた上，使用前と比べてどうかと質問し，併用している薬物の効果も考え合せた上判定しました。

3. 通常 5 mg ~ 10 mg. この量で効かない場合は増量してもあまり効果がないように思いました。

#### 6. 過去3年間における1才以下乳児における心血管カテーテル法および心血管造影法の実施状況

(心研) ○高山 翠・三森 重和・  
安藤 正彦・高尾 篤良・今野 草二・  
重田 帝子・中島 一己・太田 玲子

重症度と複雑度の故に死亡と罹病の多い新生児期心疾患に対しても，その解剖学的血行力学的診断の重要性から，心カテーテル，心血管造影法に年令的制限はなく，必須のものである。われわれは過去3年間に 338例行なつた。1才以下乳児の心カテーテル 176例，心血管造影 145例について，現在までの状況を整理してみた。

最低年令は生後10日であり，左心カテーテルによる選択的アンギオ 6例である。年令別にみると，全体の約60%が6カ月以下を占めていて，6カ月以下の死亡罹病の高い自然歴と一致している。疾患別にみると，心室中隔欠損症，大血管転位症，静脈還流異常症等の順に多く行なわれている。われわれの乳児左心カテーテル例数は少ないが，卵円孔開存例で，左心カテーテルのみならず，大血管転位症，大動脈肺動脈短絡疾患等では，もつと積極的な経動脈的左心カテーテルの実施が望ましい。

#### 7. 慢性窒息時における糖質代謝

(法医) 吉成 京子

窒息には，急激に死亡するものと徐々に死に至るものがあり，急速に死ぬものを急性窒息といい，徐々に死に至るものを慢性窒息，または遷延性窒息という。

急性窒息と慢性窒息では，死への経過は同一因子による単なる時間的なずれではなく，死因は全然異なるもの

であり、急性窒息はアノキシアであるのに反し、慢性窒息は動脈血中  $\text{CO}_2$  量、 $\text{pH}$ 、アミノ酸窒素の変動を示標とするときは、ショック死であるといわれる。当教室でも酒井、阿部、池本らが、血圧、循環血液量、循環血球量、アミノ酸窒素の測定などから、これを肯定し得るような成績を得た。

私は前回の本学会において急性窒息時の糖質代謝について報告したので、今回は続いて慢性窒息時の糖質代謝について報告した。

#### 8. [症例検討会] (2.30~4.00)

乳児の腹部膨隆

司会 福山 幸夫

追って本誌に全文を掲載する。

#### 9. [綜説]

回虫の感染源について (寄生虫) 松本 克彦

回虫は古くから知られ、わが国においても都会、農村を問わず広く蔓延し恐れられている。現在、回虫に関する研究が進み、その保虫率は年々減少し、全国平均では、1962年10.4%、1965年には3.9%となつた。しか

し、その反面まだ50%を越す地域が見られるのも事実である。東京女子医科大学無医地区研究会が、岩手県岩泉町において1965年より3年間、夏期に寄生虫研査を行ない、集団駆虫を実施してきた。回虫感染率は1965年34.4%、1966年44.8%、1967年40.4%を示し、感染率の減少が認められなかつた。これは、駆虫を行なつても、再感染、新感染が多く、1回の駆虫では、すぐにもとへ戻つてしまう結果である。

この再感染、新感染の根元である回虫の感染源に注目し、便槽尿尿内の回虫卵を調査したところ、尿尿1ml中に回虫卵平均874.5個を見出した。1部落の1日推定尿尿量が208l、年間187,020lとなり、回虫卵は1日約181,896,000個で、年間ほぼ1,635億個が排出されている。この驚くべき数の回虫卵が、自然界に広く分布し、感染の機会を持つていることは多くの研究によつて明らかになっている。しかし、最大の感染源は尿尿内の回虫卵であるから、完全な尿尿処理対策がなさなければ、回虫の感染率の減少は期待できないと思われる。